

モダン・ミリー (1966)

THOROUGHLY MODERN MILLIE

メディア 映画

ジャンル ミュージカル コメディ

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 138分

初公開日 1967/06/01

公開情報 U N I

【解説】

いわゆる擬古曲趣味をやってやはりロイ・ヒルほど心得た御仁はいまい。黄色人差別まで20年代のハリウッドに持ち込むことはあるまいに、との意見も多々あったようだが、それも約束ごとの範囲なので、見逃してやっていただきたい。タイトルで、カンザスの田舎娘のミリー（アンドリュース）がどんどん“モガ”になるのを見せる手練がまずよろしい。彼女はNYでよい職場を見つけ、あわよくば将来有望の上司の玉の輿に乗ろうと狙っている。宿のホテルでは最近向かいの部屋の娘が忽然と消えたが、よもや女主人のミアーズ夫人が洗濯屋に化けた手下を使ってさらったとは露知らない。その部屋にカリフォルニアの財閥出身の孤児ドロシー（ムーア）が入居して、何かと世話を焼くミリー。舞踏会で知り合った好青年ジミー（フォックス）は、社長の車やら飛行機やら持ち出してデートに誘ってくれるけど、ドロシーにも気があるみたいで少々妬ける。が、彼女は勤め先のハンサムな部長グレイトン（J・ギャヴィン、好コメディ・リリーフ？）にぞっこん。でも、彼もまた偶然紹介したドロシーに夢中になって、恋はままならない。そのうちドロシーが遂に女主人らの罠にかかり、売春組織のボスーという女主人の正体を見破ったミリーらは、女装のジミーを囷にして奪還作戦にうって出るのだった。全編に横溢するスラップスティック感覚、字幕場面の挿入で内心の声を表現したりする遊び、ヴァン・ヒューゼン＝カーンによる四つの新曲の楽しさ。映画ミュージカルとしては久々の快打で、何より嬉しいのは、ジミーに誘われて遊びに行く富豪の未亡人C・チャニングの生き生きとしたキャラクター。曲芸に出たりして本当に人生を楽しんでいるのだ。彼女の唄も踊りも全くジュリーを喰ってしまった。

【クレジット】

| | | | |
|----|---------------|-------------------|--------------|
| 監督 | ジョージ・ロイ・ヒル | George Roy Hill | |
| 製作 | ロス・ハンター | Ross Hunter | |
| 脚本 | リチャード・モリス | Richard Morris | |
| 撮影 | ラッセル・メティ | Russell Metty | |
| 編集 | スチュアート・ギルモア | Stuart Gilmore | |
| 作詞 | サミー・カーン | Sammy Cahn | |
| 作曲 | ジミー・ヴァン・ヒューゼン | Jimmy Van Heusen | |
| 音楽 | エルマー・バーンスタイン | Elmer Bernstein | |
| | アンドレ・プレヴィン | Andre Previn | |
| | ジョセフ・ガーシェンソン | Joseph Gershenson | |
| 出演 | ジュリー・アンドリュース | Julie Andrews | ミリー・ディルマウント |
| | ジェームズ・フォックス | James Fox | ジミー・スミス |
| | メアリー・タイラー・ムーア | Mary Tyler Moore | ドロシー・ブラウン |
| | キャロル・チャニング | Carol Channing | マジー・ヴァン・ホスマア |
| | ジョン・ギャヴィン | John Gavin | トレヴァー・グレイドン |

| | | |
|-------------|----------------|--------|
| ジャック・スー | Jack Soo | チンホー |
| パット・モリタ | Pat Morita | バンフー |
| フィリップ・アーン | Philip Ahn | ティー |
| アンソニー・デクスター | Anthony Dexter | ファレス |
| ビアトリス・リリー | | ミアーズ夫人 |